

**資源環境経済学特別演習 I 議事録**  
**2016年度 第3回**

<b>報告題名 (title) : 博論のテーマ、構成及び進行状況の報告 :</b>	
<b>第三章 草地利用・管理の実態 (仮題名)</b>	
<b>報告者 (name)</b>	那孫孟和
<b>日時</b>	6月23日 午後14:45~
<b>所属分野 (labo)</b>	国際開発学
<b>場所</b>	第3講義室
<b>座長</b>	石塚 修敬
<b>議事録担当者</b>	金 鑫
<b>出席者</b>	
木谷、井元、小山田、米澤、冬木、伊藤、石井、水木、西田、Debby、Indri、佐藤、石塚、尾崎、ソリゴガ、吉田、趙、李、木暮、辻、オルガマル、ゲゲンタナ	
<b>報告要旨 (Abstract)</b>	
報告の内容について :	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 博論のテーマ (仮) : 北東アジアにおける在来住民の生業と社会変化に関する実証的研究 ---中国の少数民族エヴェンキを事例に---</li> <li>• 博論の構成 序論 研究背景及び問題の設定と研究方法 第一章 エヴェンキの社会とその研究小史 第二章 伝統的親族集団である「モホン」と 現在の親族集団「ジュー」の発見 第三章 個別牧畜経営のやり方と相互協力の集団関係 第四章 牧畜生業における草地利用・管理の実態 (事例的研究) 第五章 ジューの機能と持続性 総括と結論</li> <li>• 進行状況 : 査読付きの投稿論文 1本 (投稿中) 章毎に一回の報告 博論の草稿 計50ページ程度</li> <li>• 本日の内容 : 第四章 草地利用・管理の実態 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 以上のような状況の中で、牧民が生産活動において請負地をどのように効果的、持続的に利用しているか、その実態解明を目的とする (1997年から現在)</li> <li>◆ 利用データ : 5回の現地調査で入手した全データを使用</li> </ul> </li> </ul> <p>今回は、第四章「牧畜生業における草地利用・管理の実態」について報告する予定である。</p>	

## 質疑・応答(Q & A)

質問者：石塚

Q: 1.1996年の配分はどのような基準で決められましたか。

A:人口は一つの基準です。放牧頭数は基準であるかどうかがわかりません。

Q: 2.スライド15枚目、面積、世代数の変化以外に家畜数や生産量の変化を教えてください。

A:この質問に対して第2章で詳しく展開しています。第2章を参考してください。

質問者：尾崎

Q: 1.仮説はどう理解すればよろしいですか。

A:土地紛争があったら、村長ではなく、当該地域の長老たちがディスカッションし、問題の解決に取り組んでいます。それはジューの調整機能です。

Q: 2.調整機能はどのような手法で測る予定ですか。

A:これから検討します。

質問者：盛田

Q: 1.請負制度前に土地所有や経営体はどのような状況でしたか。

A:人民公社時代です。土地は集団所有です。

Q: 2.現在、請負制度のもとで、住民たちは土地を貸したり、借りたりしていますか。

A:はい、しています。

Q: 3.紛争の事例2について、土地は共有地ですね、3人とも使おうと思えば使えますか。

A:使えます。ただし、共有地と言っても、みんな使うところが暗黙で固定されています。

Q: 4.共有地はどう分配していますか。

A:共有地は集落の周辺に何箇所があります。大体、みんなの住むところの近い土地が分配されます。

Q: 5.分配する時に入札式で行われていますか。

A:いいえ。

質問者：井元

Q: 1.ガチャーの分配はみんなに通知しない理由を教えてください。

A:1996年継続する時に、特定の人だけ知らせていました。何故みんなに通知しないかがわかりません。

Q: 2.住民たちは情報の公開を要求していないですか。

A:要求していますが、公開しないらしいです。

